

Han

En

岐阜大学 + 笠松町学官連携事業

Kū

Show

汎工クウ頌

2026年2月14日(土) ~ 3月22日(日)

開館時間 || 9時 ~ 17時 [休館日 || 月曜日(祝日の場合は翌日)]

入場無料 笠松町歴史未来館



不動明王 [岐阜県羽島郡笠松町慈眼寺蔵]

碧玉の如き清浄無垢とそれを作成する心智の明澄さその技能の洗練さ。刀法の微妙なる即ち鈍のサバキの快適さである。実に驚くばかりなる自由奔放な彫刻である。実に素晴らしい刀跡である。その風致結構においてもこの人にしてこの形式を採ることは自然であってその心境も察し得るのである。

橋本平八

すべて型を破り、独自の世界を示し、近世美術史の上において、特異の光を放つものであり、現代の感覚に直結する示唆深いものである。

土屋常義

日本の彫刻の歴史で、これほど自由に人間を造形した例が他にあらうか。それは性格の写実的描写といふことではなく、あえて現代の造形思想になぞらえたとすれば、表現主義的な要素をここにはじめて見るといってもよいのではなからうか。多くの彫刻の形態がいわばキュビスティックな様相を呈していることである。

瀧口修造

室町時代以降、停滞していた職業仏師による彫刻表現から脱却し、おそらくは独学で制作を始めた円空が、早くも十七世紀にヨーロッパに先駆けて新しい表現を生み出したことを、やはり日本の美術史の中で正當に位置づけていく必要があると私は考える。

野村幸弘

円空——江戸初期の稀有な芸術家 野村幸弘

円空は寛永九（一六三二）年、おそらく伊吹山を臨む濃尾平野の西、木曾三川の輪中で生まれ、三十歳を過ぎた頃、郡上の美並で神像、仏像を彫り始めた。東北・北海道の旅に出て美しい正三角形の岩木山、羊蹄山、大尽山を遠望する場所に

十一面観音像と菩薩像を残し、北関東への旅では複雑な形状の稜線をもつ妙義山、女峰山の見える場所に不動明王像を多数制作した。円空の彫刻もそうした山容に応じてシンプルなシルエットから複雑な様式へと変化して行った。円空の彫刻の特徴は、その様式の変化の激しさであり、どんな端材も無駄にせず素材の特質を生かすことである。十二万体の仏像を

彫ると発願した仏師、『大般若経』に百三十枚の絵を描いた絵師、そして千六百首の和歌を残した歌人でもあった遊行僧円空は、元禄八（一六九五）年、美濃、池尻の長良川畔で亡くなった。この展覧会では、没後三三〇年を記念して円空の多才な芸術活動にオマージュを捧げるとともに、その芸術に触発されて制作した九人の作家による作品を展示する。



円空の再評価に大きく貢献した元岐阜大学、土屋常義の研究を引き継ぎ、岐阜・愛知に数多く残されている円空の木彫作品にオマージュを捧げる展覧会。円空の研究を行っている野村幸弘の講演と映像作品の上映、岐阜大学教育学部美術教育講座の教員、河西栄二の木彫作品、山本政幸のデザイン・ワーク、隼瀬大輔の木工作品、山田唯仁の絵画作品、岐阜大学OB、南真生、田中太一郎、平光祥太、茅嶋千登世の作品を展示する。

講演会「円空、江戸のアヴァンギャルド」

講師：野村幸弘（岐阜大学教授）

日時：2026年2月28日（土）14:00～15:00

会場：笠松町歴史未来館 多目的ホール

参加をご希望の方は、QRコードからお申し込み下さい。（先着50名で締め切らせていただきます。）



【出品作家】

●野村幸弘（のむら・ゆきひろ）——東北大学大学院、シエナ大学でイタリア美術史を学ぶ。現在、岐阜大学教育学部教授。ジョットや円空に関する学術研究のほか、1994年アーティスト集団「幻想工房」を結成、「場所」をキーワードに「幻聴音楽会」の企画・演出、芸術評論、絵画、デザイン、オブジェ制作、映像制作など多岐にわたる活動を展開。2011年より美術史研究と映像表現を融合させた「映像美術史」シリーズを制作。

●河西栄二（かさい・えいじ）——筑波大学大学院で彫刻を学ぶ。現在、岐阜大学教育学部教授、新制作協会会員。1995年新制作展（以後毎年）、2003年、2006年新作家賞受賞、2007年会員推挙。那須野ヶ原国際彫刻シンポジウム、現代美術選抜展（文化庁）、富嶽ピエンナーレ展、次代を担う彫刻家たち展、公募団体ベストセレクション美術2014、個展 極小美術館・ギャラリーいまじん、大東化工、2019年岐阜市芸術文化奨励賞。

●山本政幸（やまもと・まさゆき）——筑波大学大学院芸術学研究科、英国レディング大学大学院でタイポグラフィを学ぶ。多摩美術大学を経て現在、岐阜大学教育学部教授。専門はデザイン学、タイポグラフィ論。2011年に文字造形に特化した『20世紀のポスター [タイポグラフィ]』展（東京都庭園美術館）や英国を代表する書体デザイナーの『エリック・ギルー文字の芸術』展（多摩美術大学美術館）を企画・開催。

●隼瀬大輔（はやせ・だいすけ）——東京学芸大学大学院で工芸・美術教育を学ぶ。現在、岐阜大学教育学部准教授。日本クラフト展、工芸都市高岡クラフトコンペティション、朝日現代クラフト展などに入選。2004年工芸都市高岡クラフトコンペティション優秀賞、2005年朝日現代クラフト展優秀賞。その他、個展など。

●山田唯仁（やまだ・ゆいと）——兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科修了。現在、岐阜大学教育学部助教。公立中学校教諭、公立小学校教諭を経て2023年より現職。専門は初等中等教育学、美術科教育、題材開発。現代における造形表現やデザインの考え方を基に、図画工作科と美術科の授業のあり方を探ることをテーマに活動。描画材の特性に着目した教育の研究と絵画制作を実施中。

●南真生（みなみ・しんせい）——2023年、岐阜大学教育学部美術教育講座卒業、2025年、同大学大学院教育学研究科修了。現在、各務原市立桜丘中学校教諭（美術）。第16回アートフォーラム出品、2023年、個展「孤立無援の壁」（岐阜大学構内）、2024年、個展「立てることの形象」（岐阜市折立・大東化工、工場内）、同年11～12個展「くあること立てること」（郡上市八幡・KOKU現代アートギャラリー）。

●田中太一郎（たなか・たいちろう）——2023年、岐阜大学教育学部美術教育講座卒業、2025年、同大学大学院教育学研究科修了。現在、山県市立高富中学校教諭（美術）。第3回ぎふ美術展工芸部門入選、第52回各務原市美術展彫刻・工芸部門入選、第15回・16回・17回アートフォーラム出品、2022年、グループ展「工業日和」（新桜町・ギャラリー水の音）、2024年、個展「器と怪獣」（伊奈波通・麦とろカフェらいちょう）。

●平光祥太（ひらみつ・しょうた）——2023年、岐阜大学教育学部美術教育講座卒業、2024年から岐阜県立多治見工業高等学校教諭（工業デザイン）。岐阜大学教育学部美術教育講座webサイトの新規立ち上げ、第1回～第4回プレーメン、DMデザイン制作。

●茅嶋千登世（かやじま・ちとせ）——2023年、岐阜大学教育学部美術教育講座卒業。現在、人形作家として活動中。Gallery 栖（岐阜市黒野）運営。岐阜工業高等学校定時制非常勤講師（美術）。第16回・17回・18回アートフォーラム出品。2024年、映画「舞」の人形提供・撮影協力（美濃市）、個展「柳ヶ瀬・古道具屋 mokku mokku内、ART LIFE GIFU）。2025年、グループ展「GIFUted」（大阪市・gallery yongou）。

笠松町歴史未来館

〒501-6052 岐阜県羽島郡笠松町下本町87番地
TEL：058-388-0161 FAX：058-388-0185

名鉄笠松駅から徒歩15分/名鉄笠松駅から公共施設巡回町民バス
下門間ゆきにて10分、歴史未来館前下車/専用駐車場あり（7台）

